

「助け合える社会へ」 ～多様性と共に感力で溢れる街・八王子～

Toward a society where we can help each other
～Hachioji, full of diversity and empathy～

グループ名：ひまわり

磯部 美咲, 井手 南, 光畠 咲希峰, 山口舞

指導教員 青野 健作

創価女子短期大学 国際ビジネス学科 青野ゼミナール

キーワード：多様性、助け合い、SDGs、サポートヘルプ

1. はじめに

本提案の大きな目標は、「助ける/助けられる」という二極化した発想に根づくものではなく、「助け合える社会へ」をコンセプトに置いている。SNS の普及に伴い、現代はダイバーシティ（多様性）が求められる時代になり、従来のような二分化する考えでは対応が難しいことが増えてきた（例えば、LGBTQ 等）。したがって、私たちはお互いが助け合える社会へと改革させていく必要があると考える。

2011 年、東日本大震災が発生した直後、被災地の支援・復興のため人々の助け合いが、世界各地で話題になった。一方で、今の日本はというと以前ほど助け合いの姿が見受けられなくなつたように感じる。図 1 は、過去 1 ヶ月の間に、困っている見知らぬ他者の手助けをした者の割合である。

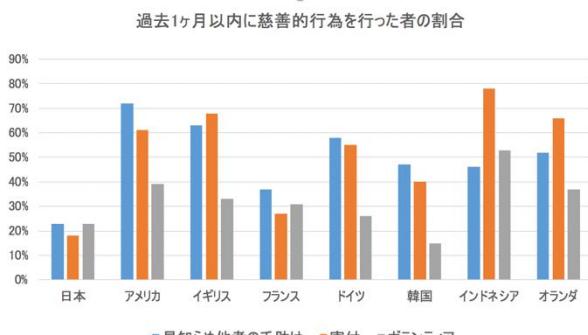


図1 國際比較で見た日本人の慈善的行為(2019年9月12日) World Giving Index 2018 より

2. 提案概要

このような問題意識に基づいて、八王子市民が助け合えるような街づくりを目指して、以下の 3 点を提案する。

- ① Youtube 動画作成
- ② セミナー等の勉強会の開催
- ③ 公式ロゴ（ステッカー）の作成

3. 具体的な提案内容

① Youtube 動画作成

八王子市から「助け合える街づくり」をしていくために、市民の共感力を高めることを目的に、Youtube 動画の制作をプロジェクト化する。具体的には、八王子市長に対して、「ドッキリ大作戦」動画を作成する。八王子市で困っている人を助けていくことを目的に、月一回の企画で、ターゲットを八王子市長とする。多様性や助け合える社会を大枠として、具体的な企画案は八王子市民から募集し、エキストラも含めて八王子市民が全員参加型で取り組むものである。市の公式 Youtube チャンネルで公開し、視聴者への共助社会への構築に良い影響を与える効果が期待される。

② セミナー等の勉強会の開催

上記で示した動画のテーマをもとに、セミナー

等の勉強会を行い、専門家を講師に呼んで社会課題について共に学ぶ場を提供する。既に八王子市には「いちょう塾」があるが、それとは別の枠組みで八王子市長の陣頭指揮の下、市民が社会課題の各テーマに準じた学びができるような取り組みにする。具体的には、オンラインと対面のハイブリッド形式で開催し、オンラインの方法としてはインスタライブやYoutube機能を活用する。このセミナーを通じて、困っている人に対する手助け方法などを提示し、実践へつなげていけるような内容にする。

③ 公式ロゴ（ステッカー）の作成

本企画全体で共通するロゴ（ステッカー及びイラスト）を作成する。SNS映えするようなステッカーを作ることにより、若者やインフルエンサーの目に留まり世界中に拡散することを目指す。動画企画と同様に、八王子市民からイラスト案を募集する。具体的な方法として、クラウドファンディングを用いて、参加者に目に見えるメリットがあるような方法も検討する。いずれにしても、八王子市民が全員参加型の取り組みにすることを目標とする。

4. おわりに

本提案の背景には、サポートマークやヘルプマークの普及が関連している。どうしたら、皆で助け合える社会を構築することができるかという問題意識のもと、様々な団体が取り組みを行っていることを研究・調査してきた。その中で、「マーク」だけでは十分な意思表示になり得ないのではないか、また、サポート側とヘルプ側と明確に2分化することで問題ないのか、サポート側も助けられたいと感じることもあるれば、ヘルプを求める側も何かの役に立ちたいと願う気持ちもあるのではないか、そのような考えを深めていく中で、新たな発想に行き着いた。

多様化する世の中を生んだ原因にSNSが挙げられる。であるならば、多様化する世の中を、助け合える世の中に変えていける力もSNSに内在してい

るのでないかと考えるようになった。八王子市では、学生が自ら考えた案を市長に直接提案できる機会があることから、「行政側」と「市民側」という二分化にも疑問を持ち、市長も市民も一体となって、共に新しい街づくりをしていけるのではないかと考えるようになった。

本提案は、市長にドッキリをかけるという一見すると非常識な提案に見受けられるかもしれない。しかしながら、SNSの共感力は、全世界数十億人まで普及する世の中である。多様化した現代だからこそ、新たな発想で、全世界に共感の輪を広げていくことが必要ではないだろうか。このような考えに基づいて、八王子市民が全員参加型で、新たな街づくりをしていくことを念願するものである。

【参考資料】

HachiojiCityOffice (Youtube公式チャンネル)
<https://www.youtube.com/user/HachiojiCityOffice/featured>

みんなで紡ぐ幸せ 八王子ビジョン2022 -「八王子ビジョン2022」の総括- (2021年10月)
https://www.city.hachioji.tokyo.jp/shisei/001/001/kihon/2022/p029945_d/fil/zenpen.pdf

八王子の子ども食堂がクラウドファンディング食料支援活動の継続のため(八王子経済新聞、2021年9月9日)

<https://hachioji.keizai.biz/headline/3269/>

サポートハートプロジェクト

<https://support-heart.org/>

市長コラム(「広報はちおうじ」毎月1日号に掲載)
<https://www.city.hachioji.tokyo.jp/contents/kouhou/003/p007594.html>

※いずれのURLも参照閲覧日は2022年10月19日